

【Ⅱコリント人への手紙 4章】

「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。」

(Ⅱコリント4:7)



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:ダニエル大重

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2012.5.6 No.682

今年のみ言葉 歴代誌Ⅱ 20:22

我らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、
主は伏兵を設けて～彼らは打ち負かされた。



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlcccfhr/>

三浦綾子の著書に「この土の器をも」というのがあります。光世氏と結婚して1千万円懸賞小説「氷点」入選までの愛と信仰の日々がつづられています。カリエスで長年寝たきりの綾子が、少しずつ回復して雑貨屋を始め、教会の週報に連載小説を書いたり、主婦の友に手記を書いたりしていたのですが、その内、雑貨屋の仕事を夜10時までして、その後帳簿の整理をして後、夜中2時頃まで床の中で書いた小説です。1000枚の原稿用紙を光世が読みながら、「綾子、これは入選するよ。」「あらどうして。」「今朝聖書の言葉がひらめいたんだよ。『何でも祈り求めることは、既になんかえられたと信じなさい。そうすればその通りになるであろう。』この御言葉がひらめいたんだ。だから入選するよ。」その通り、第1次選考、第2次選考を通過しトップになった時「綾子。神は我々が偉いから使って下さるのではないのだ。聖書にある通り、我々は土から作られた、**土の器にすぎない**。この土の器を用いようとしたもう時には必ず用いて下さる。自分が土の器であることを今後決して忘れないようにしましょう。」と言ったそうです。

「神である主は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった。」(創2:7) このように人間は土で造られましたが、パウロが自分のことを「土の器」と言っています。パウロは、教会問題で身も心もすり切れ、また迫害にあたり、困難の中で痛めつけられても(Ⅱコリント:24~29) 勇気を失いませんでした。それは、この土の器に御霊が宿り、主の御心を行う力と助けと導きと与えられ、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。自分は弱いけれど、神ご自身が栄光を現して下さいます。四方八方から苦しめられているけれども窮することがなく、途方にくれているけれども行きづまることはなく、迫害されていても見捨てられることなく、倒されても滅びない、と言っているのは、**いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの身において明らかに示されるためです。**

オリンピック選手でさえ、どんな困難な練習をしても、栄冠を勝ち取る喜びの前には、その困難を乗り越えますが、御霊の働きは(主のみ声に聞き従うこと、滅びゆく魂を主に導くこと、神の働き等) オリンピックで受ける栄冠には比べられないほどの、**永遠に続く喜び**なのです。先日救われ、洗礼を受けられた御婦人は、今まで、死ぬ目にあい、死んだ方がよかったと思った事もあるけれど、生かされてきてよかったと、洗礼の喜びを語っておられました。土の器に、更に御霊が満たされて神の御心をなしてゆけますように！どんな問題が許されても、困難があっても、感謝し、賛美し、幼子のように主に信頼してゆけますように！

「ですから私たちは決して落胆しません。肉体は次第に衰えますが、内にある力は毎日に強くなっていきます。今の私たちの苦しみや悩みは結局のところ、とるに足りないものであり、それほど長続きもしません。しかも、この束の間の苦しみは、永遠に尽きない溢れるばかりの神様の祝福をもたらすものです。ですから私たちは、今見えるものの、すなわち身の回りの苦しみには目を留めません。むしろ今は見えない天にある喜びを望み見ているのです。苦しみはやがて消え去ります。しかしその喜びは永遠に続くのです。」(Ⅱコリント4:16~18)

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。

教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。